

名古屋 名大ロータリークラブ

Weekly Report

No Rain No Rainbow ~笑顔で親睦、友情の輪を広げよう~



創 立 昭和56年3月4日 例会場 名古屋東急ホテル 中区栄4丁目6番8号 TEL(052)252-8658
 例会日 毎週水曜日12:30~13:30 事務局 名古屋市中区栄4丁目6-3岡崎ビル北館2A TEL(052)253-9075
 会 長：足立陽一郎 幹 事：玉置 正樹 会報委員長：杉浦 定文 題 字：遠藤 友彦

例 会 報 告

■ 本日の例会（第1941回）10/26（水）
 夜間例会（食の会）を開催します。
 受付 17:00 例会 17:30 食の会 18:00
 場所 ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋
 29F 中国料理 花梨

■ 次回の例会（第1942回）11/2（水）
 【ロータリー財団月間卓話】
 スピーカー 国際ロータリー第2760地区
 資金推進委員会 委員 宮田 勇人 様

■ 第1940回例会記録 10/19（水）晴
 司 会 入江 由希子 さん
 齊 唱 RS/四つのテスト
 ご来訪者 国際ロータリー第2760地区
 社会奉仕委員会 委員長 加藤 久雄 様
 副委員長 伊藤 陽介 様
 委 員 後藤 徹 様

出 席 報 告

会員数	32名	前々回訂正	1936例会
欠席会員数	17名	欠席会員	3名中
出席会員数	15名	MAKE UP	0名
出席率	46.9%	出席率訂正	87.50%

会 長 挨 拶

会 長 足立 陽一郎



先週のスポーツの秋に因んで運動会の話をしたのですが、今週はこの秋から始まった、全国旅行支援の企画に因んで、簡単に旅行の歴史の話をしたと思います。

日本人はもともと旅好きといわれていますが、本格的な

国内の旅行ブームが訪れたのは、1970年に大阪で開催された日本万国博覧会からといわれています。

当時の万博ブームを知ってる方は結構いらしゃると思いますが、日本全国から大量の人が万博会場に押し寄せたわけですが、人々の多くは鉄道を利用し、来場されました。

それは各地で臨時列車が増発されるほどでした。そこで日本人が万博を通して芽生えたレジャー欲を、万博が終了しても継続させて行きたいと願ったのが、日本国有鉄道、いわゆる国鉄が全国的に行った「ディスカバー ジャパン」というキャンペーンでした。それが1970年の10月から始まり、「ディスカバー ジャパン」皆さん懐かしい言葉ですね。従来のキャンペーンは特定地域に絞ったものが多かったのですが、この「ディスカバー ジャパン」は全国的に進められていきました。

コンセプトとして「日本を発見し、自分自身を再発見する」といったキャッチコピーが付けられました。

当初このキャンペーンの名前に関して、「国鉄がなぜ英語を使うんだ」といった非難や、アメリカで1967年に実施された「ディスカバー アメリカ」という国内旅行を促進するキャンペーンの二番煎じなどという批判があったため、副題として、「美しい日本と私」というキャッチコピーも付けくわえたら、これが大ヒットしたといった経緯がありました。キャンペーン開始と同時の10月に、国鉄提供によるテレビの旅番組「遠くへ行きたい」という番組が始まりました。これは永六輔が一人で日本全国を旅して、各土地の名所の紹介や住民とのふれあいをテーマにした番組でした。永六輔が作詞した同名の主題歌と共に、当時の国民の旅行への憧れを誘った番組で、高い視聴率だったと思います。

またキャンペーンの始まりと時を同じくして、1970年に女性向けの雑誌「an an」翌年に「non-no」という雑誌が創刊されました。an an、non-no懐かしいですね。この両雑誌は、京都や倉敷・山口県の萩などのシックな街並みや、中山道の静かな宿場街などをファッションモデルが訪れる形式で紹介し、女性には絶大な人気雑誌となりました。各観光地には小グループの女性客が「an an」「non-no」の雑誌を小脇に抱え、街並みを歩くといったシーンあちらこちらで流行になり、そういった若い女性の旅行スタ

イルを「アンノン族」と呼ぶようになりました。
アンノン族、懐かしい響きですね。アンノン族に代表される女性客が増えるにつれて、国鉄も観光地も女性をターゲットとした街づくりを意識するようになりました。
各駅や列車の中に貼られていたキャンペーンポスターも、観光名所の風景や街並みなどの特定の地域を映したものから、草原の中で若い女の子がギターを弾いたり、お寺の本堂に女性が座っているシーンなど、あくまでイメージの写真が多く使われるようになり、撮影地の情報などは一切掲載されないポスターへと変わっていきました。あと旅行雑誌として、当時は国鉄が出版をしていました「大時刻表」といったものしかなかったのですが、1973年に皆さんご存じの「るぶ」といった旅行情報雑誌が日本交通公社、今のJTBから創刊されました。これは国鉄の「大時刻表」のような味気ないものではなく、旅行ガイドブックとしてかなりの人気雑誌になりました。その後この「ディスカバージャパン」キャンペーンは1978年谷村しんじ作詞・作曲で、山口百恵が歌った「いい日旅立ち」をキャンペーンソングとした「いい日旅立ち」キャンペーンを行いました。これがピークとなりその後徐々に下火になっていきました。1980年を過ぎると、国鉄の累積赤字が社会的に大きな問題となり始め、さらに航空網や、高速道路網が整備されていき、マイカーの普及に加え、国鉄の運賃の値上げが毎年のように行われたこともあり、私鉄や航空機、自動車などに対する競争力が低下し、俗に「国鉄離れ」と呼ばれる現象が各地で起きていきました。そしてこのような大型キャンペーンも徐々に下火になって行き、1987年国鉄分割民営化を迎えることとなります。民営化後はJR各社によって今でも様々な企画・キャンペーンが行われています。
まだまだこの先、コロナ禍の影響があると思われませんが、皆さんウィズコロナと考えて、旅行を楽しむのも良いかと思えます。

社会奉仕月間卓話

国際ロータリー第2760地区
社会奉仕委員会 委員長 加藤 久雄 様



地区社会奉仕委員会は地区内各クラブの社会奉仕関連活動を進めるにあたり、その活動がしやすいようにサポートす

ることが主な役割であります。
一方で各クラブの活動内容を取りまそのために関連情報を各クラブへ提供していき、またとめてクラブへ情報発信してその情報を共有することによって地区内の社会奉仕活動を進めていきます。地区社会奉仕委員会は社会奉仕、環境保全、RCCの3つの小委員会にわかれて活動しております。

社会奉仕部門には2つの役割があり一つは各クラブの社会奉仕活動のサポート、年に一度の地区内社会奉仕委員長会議にて県や市の社会福祉協議会の方等をお呼びして講演を頂き、何か各クラブで社会奉仕活動に役立てることができないかヒントをいただきます。

もう一つ各クラブがおこなっている活動を報告して頂きそれをまとめて、CD-ROM等で各クラブへ発信することです。今年度においては違う形で情報発信をしていきたいと考えます。

環境保全部門は各クラブへ奉仕活動に役立つ情報の中のリサイクル事業、海洋プラスチックごみ問題にスポットをあてた情報提供をしていきたいと考えております。また最近よく取り上げられているSDGs等も理解を深めるために取り上げたいと考えます。負わせて愛知県SDGs未来都市計画へ各クラブの活動内容をも伝えていきます。

RCC部門ではまずはRCCとは何かROTARY COMMUNITY CORPSの略ロータリー地域社会共同体のことであること知っていただき、国際ローターが設けている常設プログラムの一つであり、親睦や親善を培いながら、クラブや地区が地元の地域社会で奉仕の目標を達成することを目的としています。またロータリークラブの奉仕プログラムと一般の人々が行う奉仕活動と結びつけるお手伝いをしています。2760地区には既に17のRCCが活動しております。これは日本全体の半分がこの地区ありますが、今後もっと提唱いただけるクラブを増していくためにRCCを理解してもらうため活動をしてまいります。

ニコボックス

- ◆加藤 久雄 様、後藤 徹 様、伊藤 陽介様
本日はよろしくお祈りします。
- ◆吉村 知紗さん 10月ゴルフ友の会で優勝することができました。有難うございます。

【とっても良い季節になりました。
本日もよろしくお祈りいたします。】

- 足立陽一郎君 伊藤 晋一君 平子 明資君 入江由希子さん
- 岩田 満治君 梅村 篤君 尾関 正一君 中野 愛弓さん
- 梶川 久雄君 渡邊 泰彬君 玉置 正樹君 加藤あつこさん
- 塚本 隆君 杉浦 定文君 香田 研二君 祖父江佳乃さん
- 柴山 利彌君 加島 光君 近藤 朗君 梅村美知容さん
- 梅田 渉君 加藤 昌之君

